

3. 山村の活性化

山村は、林業を主要な産業としているが、生活環境基盤の整備の遅れ、過疎化・高齢化の進行等、様々な問題を抱えている。

以下では、山村の現状と山村の活性化の取組について記述する。

(1) 山村の現状と課題

(山村での生活条件は厳しい)

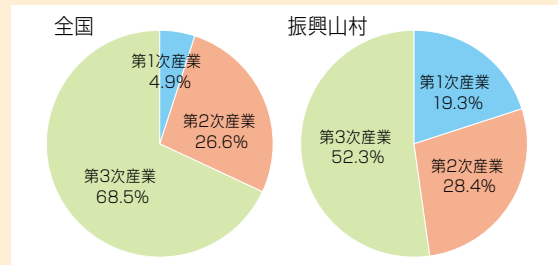
「山村振興法^{*29}」に基づく「振興山村^{*30}」は、平成22(2010)年4月現在、全国市町村数の約4割に当たる735市町村に指定されており、国土面積の約5割、森林面積の約6割を占めている(図IV-34)。

振興山村は、面積の約8割が森林に覆われ、まとまった平地が少ないなど、平野部に比べて地理的条件は厳しい。産業においても、全国平均に比べて、農業や林業等の第一次産業に依存する割合が高い(図IV-35)。

国土交通省の「人口減少・高齢化の進んだ集落等を対象とした日常生活に関するアンケート調査」によると、山村の住民が生活する上で困っていること・不安なことについての質問に対しては、「近くに病院がない」、「救急医療機関が遠く、搬送に時間がか

かる」、「近くで食料や日用品を買えない」等、医療を中心に、生活に必要な基礎的サービスの不足を挙げる者が多い。また、「子どもの学校が遠い」等、子どもの教育面での不安を感じる者も多い(図IV-

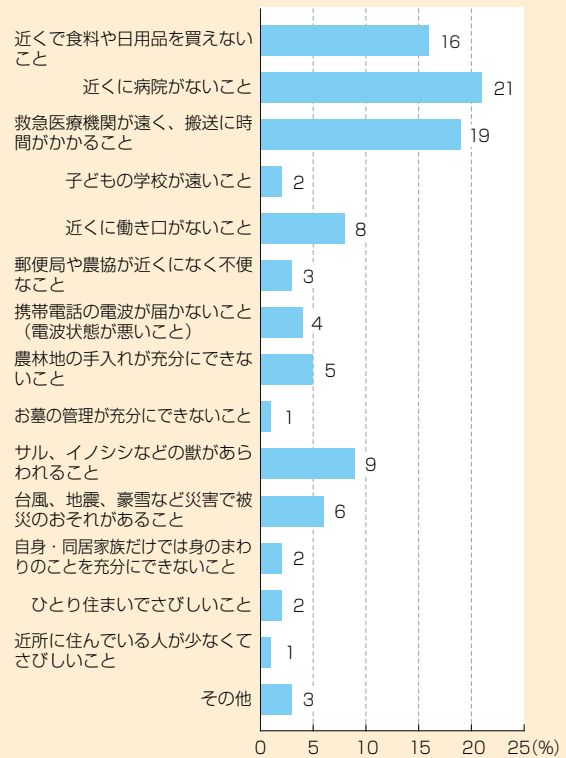
図IV-35 産業別就業人口の割合



注：全国値については、総数において「分類不能の産業」を含めていない。

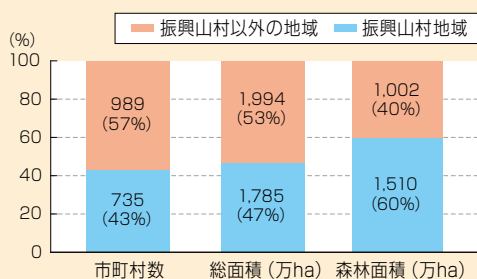
資料：総務省「平成17年国勢調査」、農林水産省「山村カード調査」

図IV-36 生活する上で一番困っていること・不安なこと



資料：国土交通省「人口減少・高齢化の進んだ集落等を対象とした日常生活に関するアンケート調査」(平成20(2008)年12月公表)

図IV-34 全国に占める振興山村地域の割合



注：市町村数は平成23(2011)年4月1日現在(農林水産省調べ)、面積は平成17(2005)年時点。

資料：総務省「国勢調査」、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、農林水産省「山村カード調査」

- *29 国土の保全、水源の^{かん}涵養、自然環境の保全等に重要な役割を担っている山村の経済力の培養と住民の福祉の向上等を図ることを目的として、昭和40(1965)年に議員立法で制定された法律。10年を期限とする時限法で、現行法の期限は平成27(2015)年3月31日。
- *30 林野率が高く人口密度が低い地域で、産業基盤及び生活環境の整備等が十分に行われていない山村について、「山村振興法」に定める手続により指定された区域。

36)。さらに、20歳代の5割が「携帯電話の電波が届かない」、29歳までの世帯主の4割以上が「将来は別の地域に移りたい」と回答するなど、若い世代で、山村の生活に満足していない者が多い。

(山村では過疎化・高齢化が進行)

山村では、農林業の衰退等により、高度経済成長期以降、若年層を中心に人口の流出が著しく、過疎化と高齢化が急速に進んでいる。この結果、振興山村の人口は、現在では全国の3%を占めるのみで、65歳以上の高齢者の割合は、31%と全国平均の1.5倍となっている(図IV-37)。

このような過疎化・高齢化が更に進行すれば、山村における集落機能の低下、あるいは集落そのものの消滅につながりかねない。

総務省の調査によれば、過疎地域等の集落の中でも、山間地の集落では、世帯数が少ない、高齢者の割合が高い、機能低下・維持困難、消滅の可能性が

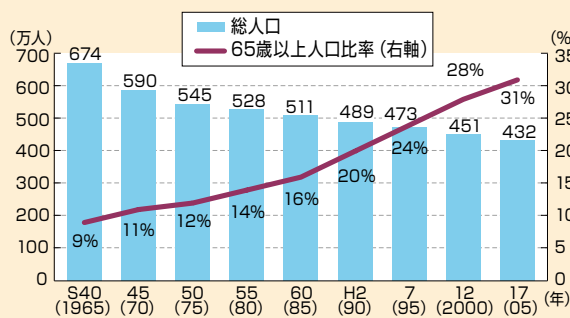
あるなどの問題に直面する集落の割合が、平地や中間地に比べて高くなっている(図IV-38)。

(過疎地域では森林の放置が増加)

実際に消滅した集落における森林・林地の管理状況を見ると、これらの集落の54%では元住民や他集落・行政機関が森林・林地を管理しているものの、残りの46%では放置されている(もと(図IV-39))。また、過疎地域等の集落では、働き口の減少のほか、耕作放棄地の増大、獣害・病虫害の発生、森林の荒廃等の問題が発生しており、地域における資源管理や国土保全が困難になりつつある(図IV-40)。

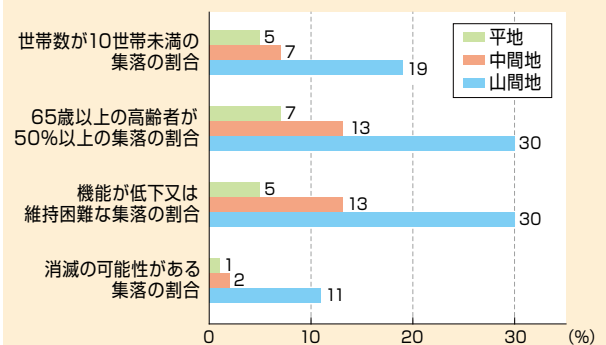
このように、山村における過疎化・高齢化は、適正な整備・保全が行われない森林を増加させ、ひいては森林の有する多面的機能の発揮に影響を及ぼすことも危惧される状態にある。

図IV-37 振興山村の人口及び高齢化率の推移



資料：総務省「国勢調査」、農林水産省「山村カード調査」

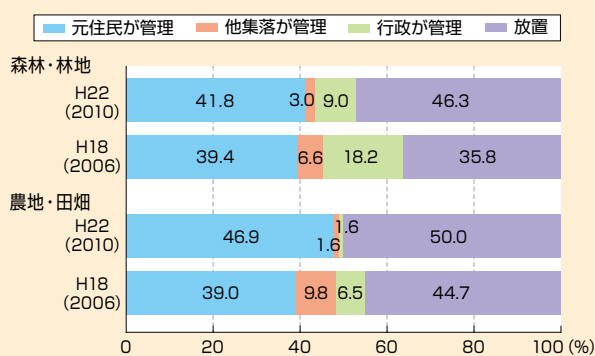
図IV-38 過疎地域等の集落の状況



資料：総務省「過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査」(平成23(2011)年3月公表)

注：「山間地」：林野率が80%以上の集落、「中間地」：山間地と平地の中間にある集落、「平地」：林野率が50%未満でかつ耕作率が20%以上の集落。

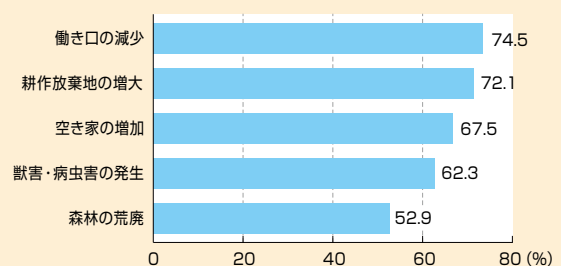
図IV-39 消滅集落跡地の資源管理状況



資料：総務省「過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査」(平成23(2011)年3月公表)

総務省及び国土交通省「国土形成計画のための集落の状況に関する現況把握調査(平成19(2007)年8月公表)

図IV-40 過疎地域等の集落で発生している問題



資料：総務省「過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査」(平成23(2011)年3月公表)

注：市町村担当者へのアンケート結果。複数回答。

(2)山村の活性化を目指して

(山村には独自の魅力あり)

山村社会は、過疎化・高齢化等の課題を抱えているが、見方を変えれば、都市のような過密状態がなく、生活空間にゆとりがある場所ともいえる。

また、山村では、生活環境基盤が都市部ほど整備されていないが、都市部で忙しく働く現代人にとっては、自給自足生活や循環型社会の実践の場として、また、時間に追われずに生活できる「スローライフ」の場として魅力があるとも考えられる。

さらに、山村には、豊富な森林資源や水資源、美しい景観のほか、食文化を始めとする伝統・文化、

生活の知恵・技等、有形・無形の地域資源が数多く残されている。このような固有資源を有する山村は、都市住民が豊かな自然や伝統文化に触れ合う場として、また、心身を癒す場として活用することができる(事例Ⅳ-6、7)。

(都市との交流により山村を活性化)

平成23(2011)年に内閣府が実施した「森林と生活に関する世論調査」によると、「緑豊かな農山村に一定期間滞在し休暇を過ごしてみたいと思う」と回答した者の割合は73%であり、都市部ほど、その割合が高くなる傾向にある(図Ⅳ-41)。また、「過ごしてみたい」と回答した者に対して、森林や農山村で行いたいことを尋ねたところ、「森林浴に

事例Ⅳ-6 伝統芸能・文化を通じた山村振興の取組

愛知県北設楽郡東栄町^{きたしたらぐんとうえいちょう}は、農業と豊かな森林資源を活用した林業で発展してきたが、産業構造の変化から、過疎化や少子・高齢化が進んでいる。

同町では、国の重要無形民俗文化財「花祭」や県指定の無形民俗文化財「設楽のしかうち行事」等の伝統文化を受け継いできたが、過疎化や少子・高齢化により、後継者や指導者の育成・確保が大きな課題となっている。

このような中、平成22(2010)年5月に、東栄町^{とうえいちょう}を拠点に活動するプロの和太鼓集団「志多ら」が中心となり、「特定非営利活動法人てほへ」が設立された。同法人では、「花祭」や和太鼓、笛等の伝統芸能や文化の伝承活動に取り組みとともに、これらを中心とする奥三河地域の地域資源を体験・交流・社会教育プログラムに活用している。



和太鼓の上演



「花祭」の様子

事例Ⅳ-7 「ハナアミ」を通じた山村振興の取組

和歌山県の南端に位置する古座川町^{こざがわちょう}は、人口約3千人の小さな町である。町面積の9割以上が森林に覆われており、古座川沿いの狭小な土地に耕地が散在している。同町では、人口減少と少子・高齢化が進む中、平成21(2009)年7月に、地域活性化対策の一つとして「ハナアミ活動」を立ち上げた。

「ハナアミ活動」は、もともと、景観づくりのために、休耕田に菜の花やれんげの種をまく活動が行われていたことから、花畑から採れる花を使って、古座川流の花飾り(=ハナアミ)を作成して販売する活動から始まった。平成23(2011)年3月には、同町で「ハナアミ」イベントが開催され、東京や大阪から約130名が集まるなど賑わいをみせた。

「ハナアミ活動」は、練習会や試験販売等を通じて、住民が楽しみながら活動を行う地域の文化事業となった。



「ハナアミ」の練習会

より気分転換する」、「森や湖、農山村の家並みなど魅力的な景観を楽しむ」、「野鳥観察や溪流釣りなど自然とのふれあい体験をする」等の回答が多くみられた。

このような意識の高まりを背景として、近年、都市住民が休暇等を利用して山村に滞在し、農林業・木工体験、森林浴、山村地域の伝統文化の体験等を行う、「山村と都市との交流」が各地で進められている。

都市住民のニーズに応じて都市と山村が交流を図ることは、都市住民にとっては、健康でゆとりある生活の実現や、山村や森林・林業に対する理解の深化に役立っている。

また、山村住民にとっては、特用林産物や農産物の販売による収入機会の増大、宿泊施設や販売施設等への雇用による就業機会の増大につながるのみならず、自らが生活する地域を再認識する絶好の機会ともなり得るものである(事例Ⅳ-8)。

(山村への定住が重要)

山村における集落機能の維持・活性化を図るためには、都市と山村の交流等を契機として、若者や都市住民を中心とするUJターン^{*31}者を山村への定住につなげることが重要である。このため、様々な主体により、山村における生活環境施設の整備、NPOや地域住民の連携による都市住民等との体験・交流活動が進められている。

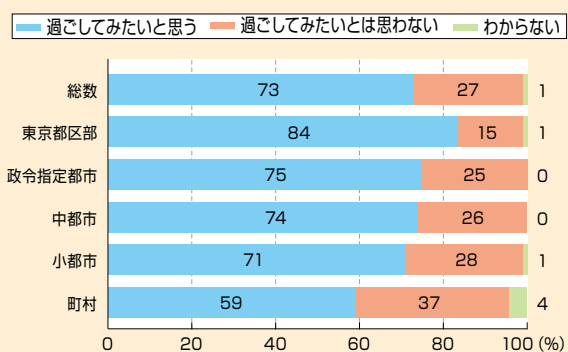
(就業機会の確保が重要)

山村が活力を維持していくためには、若者やUJターン者の定住を可能とするような魅力ある就業の場を確保・創出することが重要な課題の一つとなっている。

このためには、地域の基幹産業である林業・木材産業を振興するとともに、未利用資源の活用による事業化、木質バイオマスによるエネルギー供給の事業化、森林体験の事業化など、森林資源を活用した新たなビジネスの創出等を通じて、多様な就業機会の確保を図ることが重要である。また、きのこや山菜・木炭等の特用林産物は、生産額が林業産出額の

約半数を占め、山村地域の収入源や就業機会の確保等に大きな役割を果たしていることから、特用林産物の生産振興を図ることも重要である。さらに、若い世代では、山村の生活に満足していない者も多く、これらの世代が満足できる生活関連サービスの提供も重要である。

図Ⅳ-41 農山村滞在型の余暇生活への関心度



資料：内閣府「森林と生活に関する世論調査」(平成23(2011)年12月調査)

事例Ⅳ-8 都市との交流を通じた農山村支援

平成23(2011)年4月に、東京農業大学を中心として、「農山村支援センター」が設立された。

同センターでは、農山村における新たな社会的価値と地域の森林資源を活用した事業化を目指して、実践型の研究を行っている。特に、スマートビレッジ、CO₂クレジット、木質系新素材及び教育健康分野の調査研究を行っている。

また、農山村と都市・企業が抱える課題を相互に把握した上で、人的及び物的資源を活用した問題解決により、連携協働を促進して、双方の活性化を支援している。



*31 「UJターン」とは、大都市圏の居住者が地方に移住する動きの総称。「Uターン」は出身地に戻る形態、「Jターン」は出身地の近くの地方都市に移住する形態、「Iターン」は出身地以外の地方へ移住する形態を指す。

(6次産業化の推進)

農林水産省では、農山漁村の活性化のため、地域の第1次産業と第2次・第3次産業(加工・販売等)に係る事業の融合等により、地域ビジネスの展開と新たな業態の創出を行う「6次産業化」の取組を進めている。平成23(2011)年3月には、農林漁業者等が地域資源を活用して、新事業を創出すること等により、農林水産業の振興と食料自給率の向上を図ることを目的として、「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律(六次産業化法)」が完全施行された。

農林水産省では、平成23(2011)年度から、「六次産業化法」に基づき、加工・販売を一体的に行う農林漁業者等が作成する「総合化事業計画」及び6次産業化に資する研究・利用を行う民間業者等が作成する「研究開発・成果利用計画」の認定を開始した。

森林・林業分野では、平成24(2012)年2月末時点で、20件の「総合化事業計画」が認定されている。

さらに、農林水産省では、全国的に6次産業化を推進するため、6次産業化の取組につながる案件の発掘や、「六次産業化法」の認定申請から認定後のフォローアップまでを一貫してサポートする「6次産業化プランナー」、先導的な6次産業化の実践者等が取組のサポートを行う「ボランティア・プランナー」等の人材の活用により、各地の取組への支援を行っている。

「ボランティア・プランナー」については、平成24(2012)年2月末時点で、556名が任命されている。このうち、森林・林業分野の「ボランティア・プランナー」は、「顔の見える木材での家づくり」

や「木材を利用した新商品の開発」、「きのこの新たな販路の開拓」等の実践者64名が任命されている。

また、農林水産省では、今後の総合化事業計画の作成の参考となるよう、ホームページ等で、6次産業化の取組事例を紹介している(事例IV-9)。

事例IV-9 森林組合が間伐材等から製造したペレット燃料を販売

長野県伊那市の上伊那森林組合は、平成15(2003)年に68台のペレットストーブを購入して、上伊那地域の全小・中学校に無償貸与した。

その上で、同組合は、間伐材や林地残材から製造した木質ペレットを、小・中学校等にペレットストーブの燃料として販売している。平成21(2009)年の販売実績は1,200トンとなった。

このように、同組合では、機材の貸付と燃料の販売を組み合わせることにより、安定的なペレット燃料の販売先を確保している。



木質ペレットとペレットストーブ